



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年1月10日

上場会社名 株式会社 松屋
コード番号 8237 URL <https://www.matsuya.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長執行役員 (氏名) 古屋 毅彦
問合せ先責任者 (役職名) 総務部コーポレートコミュニケーション課 (氏名) 関 泰程
課長
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-3567-1211

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績(2024年3月1日～2024年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	36,078	19.7	3,566	71.6	3,498	70.9	2,072	2.1
2024年2月期第3四半期	30,143	21.9	2,078	—	2,047	—	2,030	△51.4

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 2,242百万円 (△26.0%) 2024年2月期第3四半期 3,031百万円 (△37.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	39.07	—
2024年2月期第3四半期	38.26	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年2月期第3四半期	74,164	28,493	37.2	519.82
2024年2月期	68,874	26,816	37.7	489.17

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 27,579百万円 2024年2月期 25,953百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	2.50	—	7.50	10.00
2025年2月期	—	3.00	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	—	—	7.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日～2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	48,000	16.4	5,000	68.1	5,000	70.1	3,000	14.0	56.54

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結結果計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年2月期3Q	53,289,640 株	2024年2月期	53,289,640 株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	233,989 株	2024年2月期	233,898 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年2月期3Q	53,055,672 株	2024年2月期3Q	53,055,797 株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期(2024年3月1日~2024年11月30日)におけるわが国経済は、東京外国為替市場における円安基調の継続による物価高の長期化や金融資本市場の変動等の影響があるものの、現政権下での総合経済対策および日銀による金融政策を背景に、景気は一部に改善の遅れがみられるも、緩やかな回復基調のうちに推移いたしました。

百貨店業界におきましては、富裕層を中心とした堅調な消費動向に加え、免税売上高が好調に推移したことにより、東京地区百貨店売上高は前年実績を上回りました。

こうした状況の中、当社グループでは、「中期経営計画『サステナブルな成長に向けて』(2022~2024年度)」において、将来のありたい姿を実現するために「未来に希望の火を灯す、全てのステークホルダーが幸せになれる場を創造する」ことを「MISSION」として位置づけ、その実現に向けた新たな成長基盤づくりと成長軌道への回復を推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は36,078百万円と前年同四半期に比べ5,935百万円(+19.7%)の増収、「収益認識に関する会計基準」等適用前の売上高に相当する総額売上高は102,945百万円と前年同四半期に比べ20,101百万円(+24.3%)の増収となり、営業利益は3,566百万円と前年同四半期に比べ1,487百万円(+71.6%)の増益、経常利益は3,498百万円と前年同四半期に比べ1,451百万円(+70.9%)の増益、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,072百万円と前年同四半期に比べ42百万円(+2.1%)の増益となりました。

<百貨店業>

百貨店業の銀座店では、中期経営計画の諸施策の下、当第3四半期におきましては、9月に銀座店の各階で、持続可能な社会へ向けた暮らしを提案する「BEAUTIFUL MIND 毎日ひとつ私と誰かにいいことを」を開催いたしました。第8回目となる当催事は、日本各地で継承される伝統工芸や産業・文化の新たな機会創出と発展を切り口に、今回は高知県とのコラボレーションによる厳選された商品の提案に加え、百貨店らしい数々のイベントの開催等によりお客様との絆をさらに深めたことで、顧客基盤の拡大と深耕に大きく寄与いたしました。

なお、富裕層を中心とした堅調な消費動向に加え、円安等を背景に幅広い国々からの訪日外国人観光客の買上が、館全体を強く牽引いたしました。

浅草店におきましては、入居する商業施設「EKIMISE」との相乗効果の発揮に取り組み、施設内を買い廻るお客様の需要を取り込むプロモーションの強化や、お客様への積極的な商品提案やおもてなしを強化する等、業績の向上に尽力してまいりました。

以上の結果、百貨店業の売上高は30,065百万円と前年同四半期に比べ4,955百万円(+19.7%)の増収となり、営業利益は3,816百万円と前年同四半期に比べ1,727百万円(+82.7%)の増益となりました。

<飲食業>

飲食業の(株)アターブル松屋におきましては、主に宴会需要が復調したこと等により、売上高、営業利益ともに前年を上回りました。

以上の結果、飲食業の売上高は2,395百万円と前年同四半期に比べ33百万円(+1.4%)の増収となり、営業損失は52百万円と前年同四半期に比べ13百万円の改善となりました。

<ビル総合サービス及び広告業>

ビル総合サービス及び広告業の(株)シービーケーにおきましては、主に建装部門等において外部の大型受注を計上したことにより、売上高、営業利益ともに前年を上回りました。

以上の結果、ビル総合サービス及び広告業の売上高は4,148百万円と前年同四半期に比べ1,003百万円(+31.9%)の増収となり、営業利益は98百万円と前年同四半期に比べ150百万円の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は前連結会計年度末に比べ、5,289百万円増加し74,164百万円となりました。これは主にその他の流動資産1,464百万円の増加、受取手形及び売掛金1,340百万円の増加、現金及び預金1,175百万円の増加等によるものであります。負債合計は前連結会計年度末に比べ、3,612百万円増加し45,670百万円となりました。これは主に借入金1,041百万円の増加、支払手形及び買掛金765百万円の増加等によるものであります。純資産合計は利益剰余金1,515百万円の増加、その他有価証券評価差額金107百万円の増加等により、1,676百万円増加し28,493百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の通期連結業績予想につきましては、2024年7月12日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,246	4,421
受取手形及び売掛金	7,397	8,738
棚卸資産	1,762	1,883
その他	2,788	4,252
貸倒引当金	△12	△12
流動資産合計	15,181	19,283
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,582	9,830
土地	22,387	22,409
その他(純額)	380	487
有形固定資産合計	32,350	32,727
無形固定資産		
借地権	9,484	9,484
ソフトウェア	657	807
のれん	—	780
その他	271	18
無形固定資産合計	10,413	11,090
投資その他の資産		
投資有価証券	8,948	9,044
その他	1,990	2,085
貸倒引当金	△9	△67
投資その他の資産合計	10,928	11,063
固定資産合計	53,692	54,880
資産合計	68,874	74,164
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,528	12,293
短期借入金	10,427	11,796
未払金	1,082	880
未払法人税等	461	1,066
契約負債	2,734	3,151
賞与引当金	145	436
商品券等回収損失引当金	412	404
固定資産解体費用引当金	60	—
その他	2,729	3,592
流動負債合計	29,583	33,622
固定負債		
長期借入金	7,615	7,287
環境対策引当金	18	18
再開発関連費用引当金	206	231
退職給付に係る負債	390	394
その他	4,243	4,115
固定負債合計	12,474	12,047
負債合計	42,057	45,670

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,132	7,132
資本剰余金	5,411	5,411
利益剰余金	9,795	11,310
自己株式	△297	△297
株主資本合計	22,041	23,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,942	4,049
退職給付に係る調整累計額	△29	△26
その他の包括利益累計額合計	3,912	4,023
非支配株主持分	863	914
純資産合計	26,816	28,493
負債純資産合計	68,874	74,164

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
売上高	30,143	36,078
売上原価	14,296	16,816
売上総利益	15,846	19,261
販売費及び一般管理費	13,767	15,695
営業利益	2,078	3,566
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	77	108
債務勘定整理益	80	56
受取協賛金	14	31
持分法による投資利益	21	—
助成金収入	4	—
その他	44	46
営業外収益合計	242	243
営業外費用		
支払利息	139	163
商品券等回収損失引当金繰入額	82	51
持分法による投資損失	—	32
その他	52	64
営業外費用合計	273	311
経常利益	2,047	3,498
特別損失		
固定資産除却損	16	162
投資有価証券評価損	34	—
再開発関連費用引当金繰入額	—	89
特別損失合計	51	252
税金等調整前四半期純利益	1,996	3,246
法人税、住民税及び事業税	345	1,257
法人税等調整額	△429	△142
法人税等合計	△83	1,114
四半期純利益	2,080	2,131
非支配株主に帰属する四半期純利益	50	58
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,030	2,072

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
四半期純利益	2,080	2,131
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	915	107
退職給付に係る調整額	35	3
その他の包括利益合計	951	110
四半期包括利益	3,031	2,242
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,981	2,183
非支配株主に係る四半期包括利益	50	58

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(再開発関連費用引当金)

2022年2月期において、持分法適用関連会社である(株)ギンザコア及び当社他が所有する銀座コアビルの再開発に関連して発生する支出に備えるため、再開発関連費用引当金を計上しておりましたが、当第3四半期連結会計期間において解体費用の再見積りを行ったところ費用が当初の想定額より増加する見込みとなり、再開発関連費用引当金の見積額を変更しております。

この変更により、再開発関連費用引当金繰入額として特別損失に89百万円計上し、当第3四半期連結累計期間における税金等調整前四半期純利益は同額減少しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	1,047百万円	1,079百万円
のれん償却額	—	120

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報
(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	百貨店業	飲食業	ビル総合 サービス 及び 広告業	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	24,667	2,360	1,555	28,583	570	29,153	—	29,153
その他の収益 (注)4	434	—	—	434	554	989	—	989
外部顧客への売上高	25,101	2,360	1,555	29,017	1,125	30,143	—	30,143
セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	1	1,589	1,599	876	2,476	△2,476	—
計	25,110	2,362	3,144	30,617	2,002	32,619	△2,476	30,143
セグメント利益又は 損失(△)	2,089	△66	△52	1,970	135	2,106	△27	2,078

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、用度品・事務用品の納入、保険代理業、輸入商品の販売、商品販売の取次ぎ、商品検査業務、不動産賃貸業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△27百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)の範囲に含まれる不動産賃貸収入等であります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	百貨店業	飲食業	ビル総合 サービス 及び 広告業	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	29,612	2,388	2,123	34,124	921	35,045	—	35,045
その他の収益 (注)4	445	—	—	445	586	1,032	—	1,032
外部顧客への売上高	30,058	2,388	2,123	34,570	1,508	36,078	—	36,078
セグメント間の内部 売上高又は振替高	6	7	2,025	2,039	894	2,934	△2,934	—
計	30,065	2,395	4,148	36,609	2,402	39,012	△2,934	36,078
セグメント利益又は 損失(△)	3,816	△52	98	3,862	△237	3,625	△59	3,566

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、用度品・事務用品の納入、キャラクターショップ運営、輸入商品の販売、商品販売の取次ぎ、商品検査業務、不動産賃貸業、Eコマース事業等が含まれております。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△59百万円は、セグメント間取引消去等であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号 2007年3月30日)の範囲に含まれる不動産賃貸収入等であります。

2 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」セグメントにおいて、当社の連結子会社である株式会社MATSUYA GINZA.comが株式会社B4Fから事業を譲り受けたことにより、新たにのれんが発生しております。

当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において780百万円であります。

なお、のれんの金額は取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。